



大門小学校シンボル像 「希望に満ちて」 製作指導者と校長先生の対談

校長先生：先生にこの像の依頼があったのは、どういうきっかけでしたか？

先生：当時の白鳥校長先生から「何らかの像」を作ってくれるかという依頼でした。それは、私が彫刻をしているので頼めば、「像」を作ってくれるのではないかということだったと思います。もちろん作れと言われれば、作れるんですけど、私が作るよりは、子供たちに作らせたらどうですかという提案を私からしました。岩坂教頭先生からは、子供たちに本当に作れるのか、うまく形になるのか、大変なことにならないかと心配の声もありました。

校長先生：岩坂先生は、教育委員会時代の先輩にあたる方だったんですか？

先生：そうですね。

校長先生：そうすると、わりと頼みやすかったということでしたか？

先生：それで、話が来たのだと思います。

校長先生：実際のところ、具合的な流れをお話いただけますか？

先生：まず、「作ってくれる？」と話が来たので、考えてしまいました。当時旧浦和市内のいくつかの学校にある、有名な人が製作した像を持ってくるのは、それはそれで良い

のですが、それに意味は無いのではないのでしょうか。数十万円お金を支払って、設置しただけになってしまうのはどうでしょう。そうではなくて、やはり子供たちに作らせたらいのではという提案をしたら、時間もかかるし、労力もかかるし、大変なことだから、本当にできるのでしょうか？と言われてしまいました。

そんな中、当時の6年生の先生と相談して、私がリード役になり、先生方が見守り、子供たちが間違っただけのことについては、注意をしてくれるなど、ルールを決めながら進められるのであれば、お引き受けしますと提案したところ、6年生の先生方からはそこまではできないですと言われましたが、責任を持って指導するから、とってこのプロジェクトがスタートしました。費用や製作する大きさもわからない、そして何のために製作するかもわからないところからはじまりました。

校長先生：まだ何も無い、デザインから関わっていただいたということですね。

先生：まず始めに、子供たちを体育館に集めて、これから学校のシンボルになる「像」を作るという話をしました。そして、図工の授業の時間に私が学校へ伺い、「今日はモデルを決めます。」「ポーズを決めます。」といった流れで進めていきました。実際には、モデルになる児童を決めるだけで1日かかりました。

校長先生：といたしますと、やはり立候補が多かったりしたのですかね。

先生：私は、そんなに立候補がないと思っていたのですが、実際には何人もが手を挙げすごかったです。結果的に話し合いで決めてもらいました。そして、モデルに決まった児童に台に立ってもらい、今度はどんなポーズが良いか1から3までのポーズをとり、決めていきました。

最初はボールを下向きに抱えているポーズでした。それではつまらないという意見が多く、それでは、手を挙げてみようとなりました。

手を挙げるには、「前」か「上」か「横」のどれか、児童が意見を出し合いながら、結果的に前に向かって上に挙げる形になりました。

まず、決まったポーズを元に私が心棒を作りました。児童に粘土を一握りずつ持たせ



て、最初のクラスは、足の部分から粘土をつけてもらいました。次のクラスは、胴から上を担当してもらいました。一回では、終えることは到底できず、コツコツと粘土を付ける作業をしてもらいました。

校長先生：構造の部分で、心棒は何で出来ているのですか？

先生：材木です。材木でおおまかな形ができたところで、縄を巻きます。縄を巻くことで、粘土が落ちないようになります。子供たちが粘土を押し付けたあと、さらに私が押し付け、濡れた布を被せ、さらにビニールで覆い次の作業につなげていました。私も1週間に1回は大門小に通っていました。

校長先生：取り組んでいる子供たちの様子をお聞かせください。

先生：子供たちは、毎回の作業が楽しみだったのでしょうか、「今日はこれだけ？」という声が多かったです。粘土も一握りだけで無くもっと2回3回と取り組みたい児童が多かったです。ただ、一度にできる作業は限られるのと、授業の一環で取り組んでいたこともあり、取り組む時間は相当なものでした。

校長先生：粘土のあとは？

先生：粘土で形が出来上がった後は、夏休み中に、石膏取りをしました。全身に石膏を被せ、固めた後、粘土を抜く作業をします。その後、川口の業者さんに中の空洞で鋳型を作成し鋳造します。最後に型をバラしていく作業があるのですが、校長先生や教頭先生にも手伝っていただき、完成に漕ぎ着けることができました。

校長先生：教育委員会から大門小へ通っていただきながら、進めたプロジェクトですが、工夫などありましたか？

先生：大門小の先生方が、授業のやりくりをしてくれ、最小の工程で進めることができました。

校長先生：児童は毎朝、校門から昇降口に進む過程で必ずこのシンボル像を見るわけですが、私自身も、毎日見っていますが、良いなあと思っています。



先生：等身大で作るのが、一つの目標でした。他の学校にも「ブロンズ像」はあるのですが、小さいですね。それでも相当なお金がかかります。であれば子供たちに作らせたいと提案した時に、良いですね。是非作りましょう。というのが、プロジェクトの原動力になったと思います。

校長先生：先生としては、もう少し手を入れたかった部分もあったかと思いますが。

先生：石膏取りをしたら、その形が完成形になるので、その前に手先の部分だとか、細かい部分を直し始めたところ、先生方やPTAの方から、完全体では無く子どもが作ったという部分を残して欲しいという意見をいただいて、程良く修正する程度にしました。

校長先生：実は、落成したブロンズ像の裏に、指導主事の先生の名前とともに、製作者は当時の6年生となっています。

先生：この像は、子供たちが製作したことが大切で、私は指導しただけです。ブロンズ像の裏面に製作者として6年生と刻まれるのが、本当の意味でこのプロジェクトの完成形だと思っています。実は、落成して数年後に、美園中学校へ指導で伺った時に、数名の生徒に、「ブロンズ像」を作った時に指導して下さった先生ですよと声をかけてもらいました。

